



こころの健康

教えてドク太くん!



千葉県医師会
もりもと こうじ
森本 浩司 医師

統合失調症について

—その4 治療③「経過に伴った周りの人の対応」—

病気の経過によって周りの人が気をつけること

Q 治療が始まったときの注意点は？

統合失調症の治療は長期にわたって必要です。しかし、その治療が始まったときには、周りの人はつい「自分がしっかりしていれば大丈夫だよ」「薬に頼らないでやってみたら？」などと言いたくなるものです。しかし、それを言うてはいけません。統合失調症を治療中の人が背負っているリスクを考えてあげてください。その一言が治療を中断させてしまい、人生を大きく変えるかもしれないのです。

実際、治療を中断してしまう人は珍しくありません。そしてほとんどの場合、その後しばらくして再発します。しかも、病気そのものが重くなることもありますし、学校や仕事をやめざるを得なくなることもあるのです。

周りの人のちょっとした言葉が「本人の意思」に及ぼす影響はとても大きいので、うっかり不用意な言葉をかけないように、配慮が必要です。

Q 治療が軌道に乗ってから気をつけることは？

病状が安定し治療が軌道に乗ってきたら、特に何事もなくとも定期的に外来に通いながら薬の服用を続ける段階がやってきます。この時期に周囲の人が気をつけなければならないことは、無理をさせないことです。

この時期になると、周りの人は安心感も手伝って仕事や学業、対人関係などについて、「もっとできるようにしてあげよう」と思いはじめるものです。またその反対に、本人の様子比以前よりも悪くなっているなど感じられて心配になり、以前の本人と比べてつい「もっとできるはず」と思い、無理をさせてしまうことがあるのです。

しかし、その頑張りや励ましがあだとなって同じ治療を続けているにもかかわらず、病気だ

けを悪化させることがあるのです。

また、きちんと治療を継続し一見何事もないまま生活を送っているように見えていても、急に入院が必要になることがあります。周囲の人は、そういう場合のあることもあらかじめ知っておくとよいでしょう。

Q 入院する場合はどんな時？

入院が必要となる場合は、大まかにいって2つのパターンが考えられます。一つは、病気そのものが悪化した場合、そしてもう一つは休息のためです。

周りの人にとって、前者の場合は比較的分かり易いと思います。しかし後者、つまり休息のための入院というのは分かりにくいかもしれません。そのため、疲れに気づいてあげられないまま無理をさせてしまうことがあります。

統合失調症の特徴として“疲れ”のために入院が必要となる場合のあることも知っておいてください。

みなさんに伝えたいこと

- ・ 統合失調症は「長期療養」！
(安定した状態が長く続いても、治療を中断すると高い確率で再発するためです)

このことを踏まえ、周りの人はついやってしまいがちな不用意な言葉かけに気をつけましょう。



周囲の人の言葉かけは
「長期療養」をささえる!



★ 次号は「療養のコツと治療の終了」について解説いたします。